

自助から互助へ

～認知症サポーター養成講座からの展開～



北海道・砂川市
砂川市地域包括支援センター
管理者・高橋 聡



北海道砂川市基礎情報(H29.3末)

人口	17,406人	65歳以上人口	6,454人
高齢化率	37.08%	第6期介護保険費	4,600円
要介護認定者数	1,213人	要介護認定率	18.79%
日常生活圏域数	1	包括数	委託：1

認知症地域支援推進員数： 1名（委託：1名）

地域の特徴： 東西に約10.5km、南北に約12.7km、総面積は78.68平方kmとコンパクトシィティ。中央には北海道の大動脈である国道12号のほか、JR函館本線や道央自動車道がそれぞれ南北に伸び、昭和59年に環境省よりアメニティータウンの指定を受けた。市民1人当たりの公園面積日本一となっている豊かな緑と水に囲まれた街(公園の中に街がある様な風景)となっている。





砂川ハイウェイオアシス館



北菓楼



ファーマーズカフェ空の森



北海道立こどもの国



さあ、どれにしますか?

こだわりの逸品をお楽しみください。

Sweet Shop [菓子店]

1 ナカヤ

*国道12号沿い
砂川市東1条南10丁目 TEL(0125)52-2575



数量限定、
特製「アップルパイ」

新鮮な「生」の富士リンゴを産地から直送し、「生」本来の食感・味を残して煮上げ、パイに使用。生地はもちろん手折りのサクサク感。ご予約の電話があれば、確保OK。なお、リンゴが収穫されない9月・10月は季節限定「新栗いっパイ」が登場します。
<営業時間>9:00~18:30[月曜日定休]



2 いよだ

●本店(国道12号沿い)
砂川市東1条南2丁目 TEL(0125)52-2015
●支店(ショッピングプラザ アイアイ内)
砂川市東1条南1丁目
<http://iyoda-seika.com/>



和の素材が織り成す
絶妙の味、「みちくさ」

丹念に焼き上げた和風のカステラに「あん」をロールケーキのようにして挟み込んだ「みちくさ」。あんはつぶあんとしそあんの二種類、カステラはあんに合わせて生地の色も味も変えている。
<営業時間>
本店/8:30~19:45
アイアイ店/9:30~20:00
※支店とも年中無休(元旦のみ休み)



3 プチ・トリフ山屋 北光本店

*国道12号沿い
砂川市西1条北9丁目 TEL(0125)52-3477
<http://pt-yamaya.jp/>



ロングセラーのデニッシュ
ペストリー「シベリア」

創業者の思い出と重なるシベリア鉄道の枕木から名を取った「シベリア」。カステラの上に「あん」を載せ、デニッシュペストリーの生地を巻いた創作パンは30数年のロングセラー。
<営業時間>北光本店/8:30~19:00[年中無休、1月1日・2日休み]



4 ほんだ

●本店(国道12号沿い)
砂川市西1条北11丁目 TEL(0125)52-6321
●砂川アイアイ店(国道12号沿い)
砂川市東1条南1丁目 TEL(0125)52-2334



りんごとマドレーヌ風の
生地のハーモニー
「ふくろがけ」

「りんご」本来のおいしさを活かしながら蜜付け加工した素材を、マドレーヌ風生地で包み焼き上げた「ふくろがけ」。りんごの実ひとつひとつに紙をかぶせるやさしさ似た美味しさをどうぞ。
<営業時間>本店/9:00~19:00
砂川アイアイ店/9:30~19:00
[年中無休、元旦のみ休み]



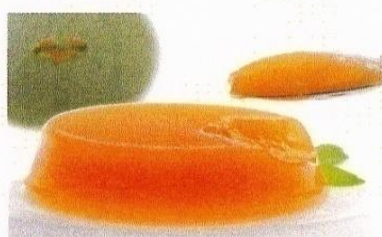
ホリ

砂川市西1条北19丁目2-1 TEL(0125)54-2231
<http://www.e-hori.com/>

芳醇な香りとみずみずしさ、
もうひとつの夕張メロン
「夕張メロンピュアゼリー」

夕張メロンの完熟果肉を使用し、味、香り、食感ともに夕張メロンそのものの美味しさを楽しめる、北海道スイーツの定番です。

*次のお店でお求めください
●砂川ハイウェイオアシス館内
●ショッピングプラザ アイアイ
●コープさっぽろ砂川店
●砂川パークホテル



5 北菓楼

●本店(国道12号沿い)
砂川市西1条北19丁目 TEL(0125)53-1515
●砂川ハイウェイオアシス館店
砂川市北光336番地 TEL(0125)53-2645
<http://www.kitakaro.com/>



「夢不思議」はパイ生地使用の
ジャンボなシュークリーム

人気のジャンボパイシュークリーム「夢不思議」。口に広がる、こだわりのカスタードクリームは「もっと食べたい!」という気持ちに添えてくれる嬉しいボリューム。
<営業時間>本店/9:00~19:00
ハイウェイオアシス館店/
9:00~19:00(4月~10月)、
9:00~17:00(11月~3月)
[年中無休、元旦のみ休み]



6 岩瀬牧場

●岩瀬牧場
砂川市一の沢237番地6 TEL(0125)53-5071
フリーダイヤル(0120)113-529
●ファームレストラン「リヴィスタ」
砂川市一の沢237番地6 TEL(0125)56-2166
<http://www.iwasefarm.co.jp/>



3層になった感動のおいしさ、
生チーズケーキ「一生懸命」

1層目にグラハムクッキー、2層目はやさしいスフレ、3層目には独特の風味を誇るフロマージュクリーム。3つのおいしさが倍にふくらむ。原材料には自前の牧場で搾った牛乳を使用。
<営業時間>岩瀬牧場/9:00~18:00(7・8月は19:00まで)
[年中無休]
ファームレストラン リヴィスタ/11:30~21:00
[水曜日定休]



7 吉川食品(工場でも直売いたします)

砂川市東豊沼26番地 TEL(0125)54-1611
<http://www.yoshikawafoods.co.jp/>



北海道の豊かな恵みが
「おはぎ」になった

海外を含め、全国各地のスーパーや量販店を通じて「おはぎ」“大福餅”を販売しています。厳選した小豆を使い、独自の製法で作る「おはぎ」は冷凍保存が可能、解凍後も作り立てのおいしさが楽しめます。

<営業時間>9:00~17:00
[土・日曜、祝日定休]



すながわスイートロード協議会の活動について

「すながわスイートロード協議会」が誕生したのは、平成14(2002)年。おいしいお菓子のパワーをコアにして、町全体をもっと元気にしたというメンバーによって結成され、スタッフには市民の方もいます。

協議会では、住民のためのお菓子の講習会を開いたり、野外で植木鉢を使った「野焼きパン」のイベントなどを開催。また、すながわスイートロード協議会主催だった「ジャリン子ハロウィン」は、10月にかぼちゃのランタン(提灯)を商店の店先に飾るもので、今では町全体で取り組むイベントに成長しています。

特に、すながわスイートロードのお菓子・約30種が交流センターに大集合する「スイーツフェスタ」は毎年大人気。さらに札幌や旭川から足を運んでもらうスイートロードのおいしさを味わう日帰りバスツアーの企画にも協力し、砂川ならではの元気な町づくりに貢献しています。

ほかにもスイートな魅力がいっぱいのスポットをご体験ください。

基幹産業は

- 「地域で高齢者を見守る・支えるしくみ」づくり
 - 砂川市高齢者いきいき支え合い条例(H25年4月)
 - 三情報(住所、氏名、性別)+本人同意事項の町内会へ提供
 - * 砂川市→砂川市社会福祉協議会→町内会(自治会)
 - 地域懇談会(砂川市、包括、町内会(自治会)、民生児童委員)開催
 - 砂川市高齢者支え合いネットワーク事業(ささえあいねっと)
 - * 協定を結んだ市内事業所との相談体制整備
- 砂川市地域包括ケアネットワークシステム(砂川みまもりんく)
 - 砂川市立病院の医療情報を本人の同意により共有化
- 認知症ささえあい手帳(認知症ケアパス)

- もの忘れ外来診療開始(H16年)
 - ・ 精神科、脳神経外科、神経内科のスクラム診療
 - ・ もの忘れ相談医(病診連携)制度
- 認知症疾患医療センター指定(H22年)
 - ・ 認知症医療連携協議会設置
 - ・ かかりつけ医研修開催
- 中空知管内地域包括支援センター懇談会
- 認知症家族介護者教室
- 介護支援専門員懇談会
- 認知症初期集中支援推進事業委託(H26年)
- 認知症サポート医

砂川市

砂川市地域包括支援センター
(一般社団法人 北海道総合在宅ケア事業団委託)

- 地域包括支援センター開設(H18年)
- 認知症キャラバンメイト
 - ・ 認知症サポーター養成講座
- 認知症対策連携強化事業委託(H22年)
 - ・ 認知症連携担当者配置
- 認知症施策総合推進事業委託(H23年)
 - ・ 認知症地域支援推進員配置(名称変更)
- サテライト地域包括支援事業(H25年)
- 認知症初期集中支援事業委託(H26年)
- 認知症カフェ〈ひだまりカフェ〉(H27年)

砂川市認知症を抱える家族の会
(ひだまりの会) <H19年>

ふれあいセンター

砂川市社会福祉協議会

○砂川市成年後見支援センター (H29年)

認知症初期集中支援チーム(H26.9)

- ・ 包括センター 主任ケアマネ(介護福祉士)
- ・ 疾患センター 認知症看護認定看護師
- ・ 疾患センター 専門医(チーム医師)

砂川市立病院
(認知症疾患医療センター)

空知医師会

介護事業所等

NPO法人 中空知・地域で
認知症を支える会

- 任意団体として設立(H16年) →多職種連携
 - ・ 市民健康フォーラム(地域啓発)
 - ・ 認知症ケアスタッフ研修
 - ・ 施設訪問座談会
- NPO法人認証(H22年)
- 認知症サポーター養成講座(H20年)
- 認知症ボランティア養成講座(H22年)
- 認知症基礎講座(H23年)
- 認知症多職種事例検討会(H25年)
- ささえあい連携手帳<地域連携パス>(H25年)

認知症支援Br「ぽっけ」

- 有償ボランティア活動
- ぽっけ養成講座の実施

NPO法人 中空知成年後見センター (H25年)

認知症啓発活動に取り組むきっかけ

日々の総合相談支援業務を通じて

- 1) 認知症を発症した方の近所からの声
 - ・ 地域住民の認知症に対するネガティブな感情
 - ・ 地域住民の排除する姿勢

何か変な行動をしているぞ!

認知症になったら何もできなくなるんだろ～

認知症になったらお終いなんだよな～

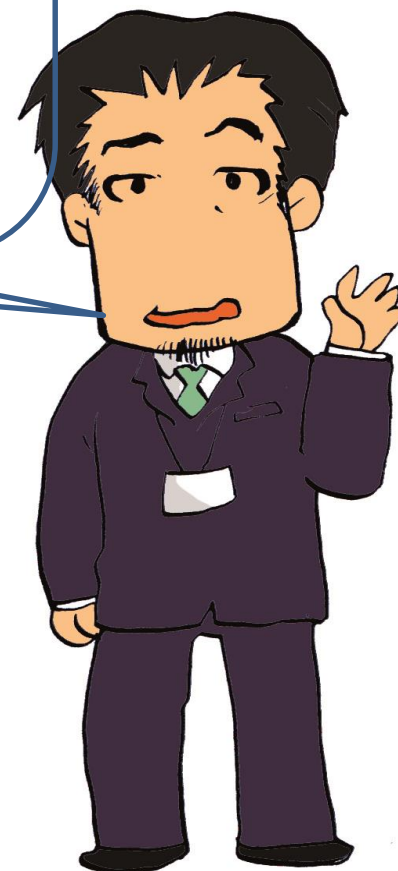
認知症になったら自宅は無理! 近所迷惑だ～

認知症になったら自宅は無理! 近所迷惑だ～



何とかしたいベさ～

(北海道弁)



2) 認知症の方を介護している介護者(家族会)からの声

- ・ 地域の方々に理解してもらえない。
- ・ 地域の方々に理解してもらいたい。
- ・ でも・・・地域には認知症に興味を持っている人も多いとの情報



認知症について興味を持っている人は多いのよ!

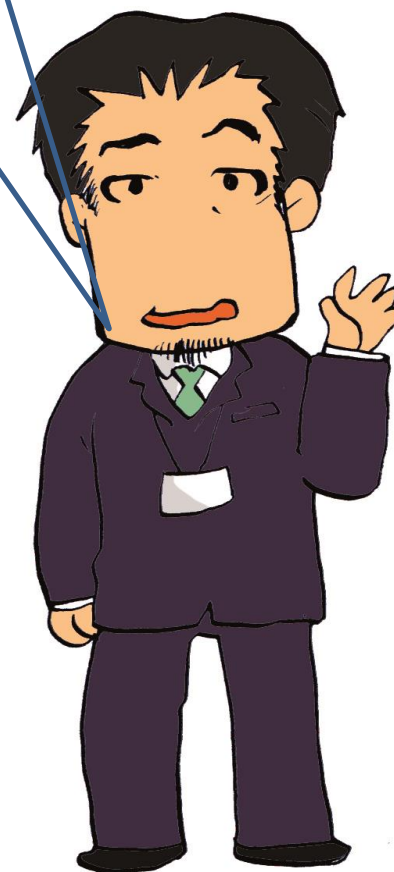
認知症について知ってもらいたい。

地域の方々に理解してもらえない。

家族の思い！

今介護をしている方、そして介護をしていた方、それぞれの思い・・・・・・・・

思いは「**重い**」ものなんです。特にOB(OG)の方の思いは「**重い**」んです。



課題解決に向けて、大切にしたい考え方・姿勢

認知症について理解していない。



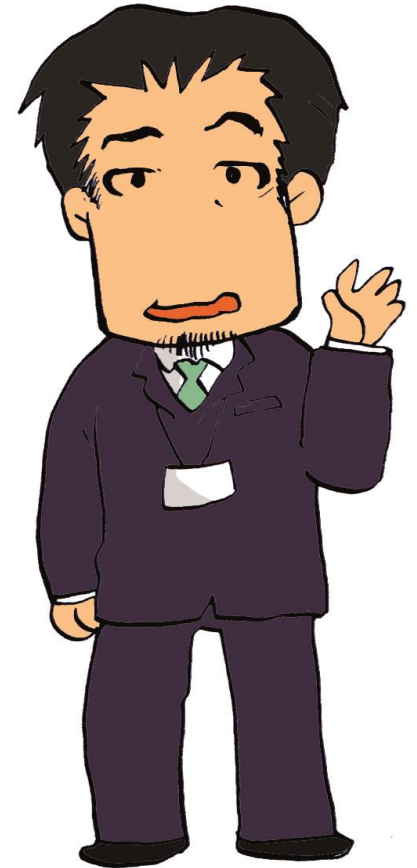
認知症について正しく
理解できていない。



認知症について正しく
理解して欲しい。



そんな地域って「素敵じゃない」



悪魔のささやき！



空知人

砂川市立病院の精神神経科医
うつみ くみこ
内海 久美子さん

もの忘れ専門外来を開設

砂川市立病院に一月、痴呆の早期発見や治療に当たり、家族の介護の負担軽減を図る「もの忘れ専門外来」が開設。精神神経科、神経内科、脳神経外科の医師がスクラムを組み、心身両面から患者や家族を支える。立ち上げに力を注いだ内海久美子医師は「高齢社会、医療、福祉、介護関係者が一丸となった患者を支えるネットワークづくりが求められている」と訴える。

「もの忘れ専門外来を持つ病院はまだ少ないですね。本人に自覚があり、家族が痴呆に気づいても、実際に病院に来る人は少数。もの忘れがひどいに行けないとか、『年のせいだから』と、治療を受けず、症状が悪化してから駆けつけるケースがほとんど。とほい、患者から見れば、精神科に行けばいいの、脳外科なのか、別の診療科なのか、相談場所がわからない。放射線技師が見解を出し合い、ただける専門外来なんです。三科の医師がタッグを組み、最善の治療方針を決めます。家族の負担を軽減する方が。患者本人の診察が半分、介護する家族の話を聞き労をねぎらったり、介護のアドバイスなどが大切なんです。」

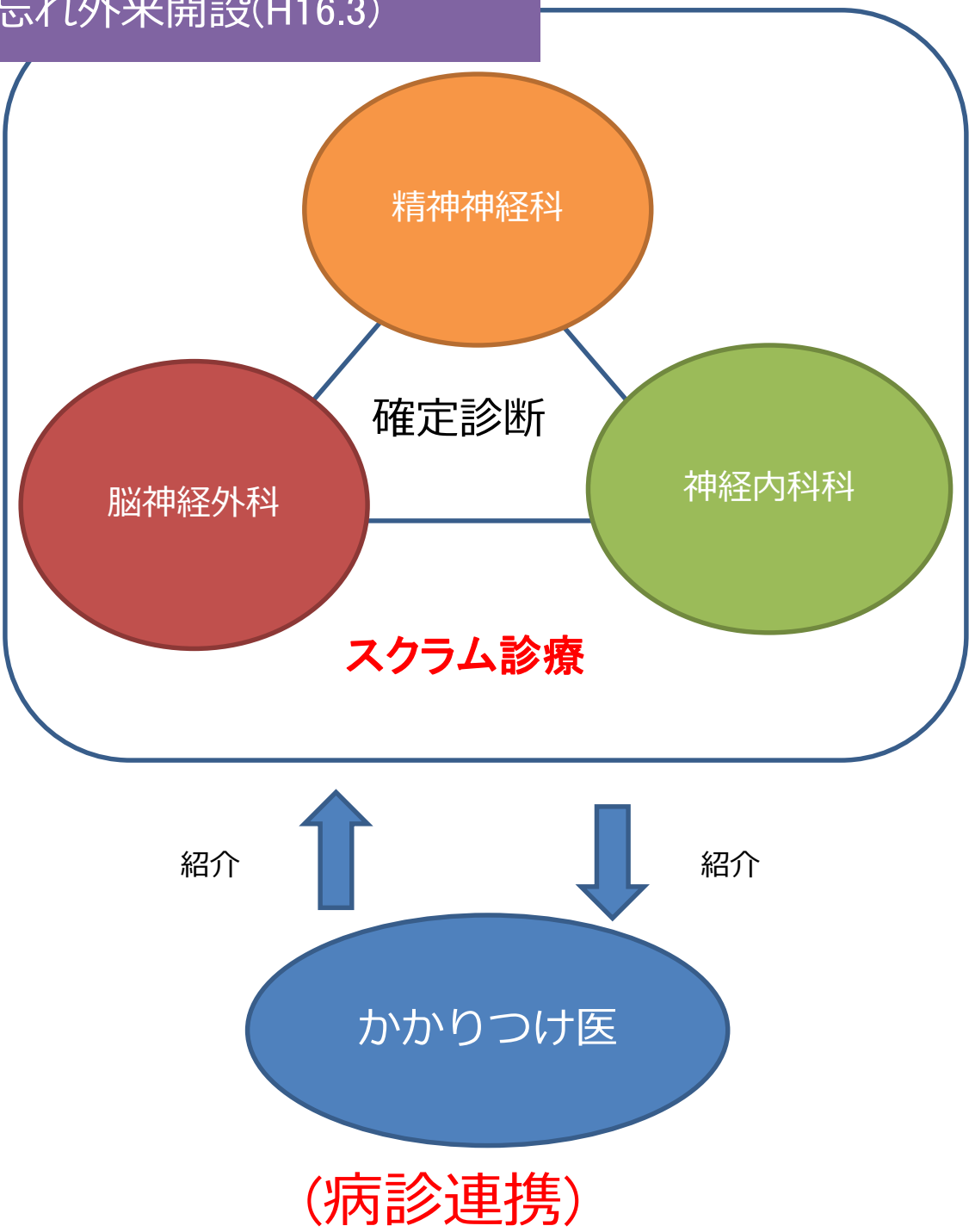
痴呆早期治療、全力で



1955年、旭川市生まれ。北大、札幌医大卒業後、同大付属病院などを経て96年から砂川市立病院勤務。アルツハイマー病の研究に従事、同年医学博士号を取得した。老年精神学の専門医。砂川市内で夫と2人暮らし。もの忘れ外来は空知医師会の相談医からの紹介が原則。完全予約制。

「痴呆を診断するのは、神経内科科は手の震え、反射、目の動きなどを検査、脳外科は脳の変化を画像から診る。三科の医師と相談して、適切な治療を行います。四月には、中支知・地域で痴呆を支える会が発足し、医師の役割が増す予定です。」

「札幌大の同期で砂川市立病院の高橋明医師(脳外科)と二人で『患者が在宅で長く生活するには、福祉、介護関係者のネットワークを築かなければ』と話していました。私は北大で発達心理学を学んだ後、医学的知識を得るため、札幌大に入り直しました。そこで、老年精神学に出会った。痴呆患者が、最後まで豊かな生活を送るためには在宅の介護力と地域の理解がカギ。その手助けがしたいのです。医師や介護ヘルパー、保健師が互いに情報を共有、横のつながりを持った治療が必要で、会では痴呆のことをよく知ってもらうため、PR活動に力を入れます。地域で支え合おうと大切にしています。」



病院完結型ではなく地域を巻き込んだ支援が必要



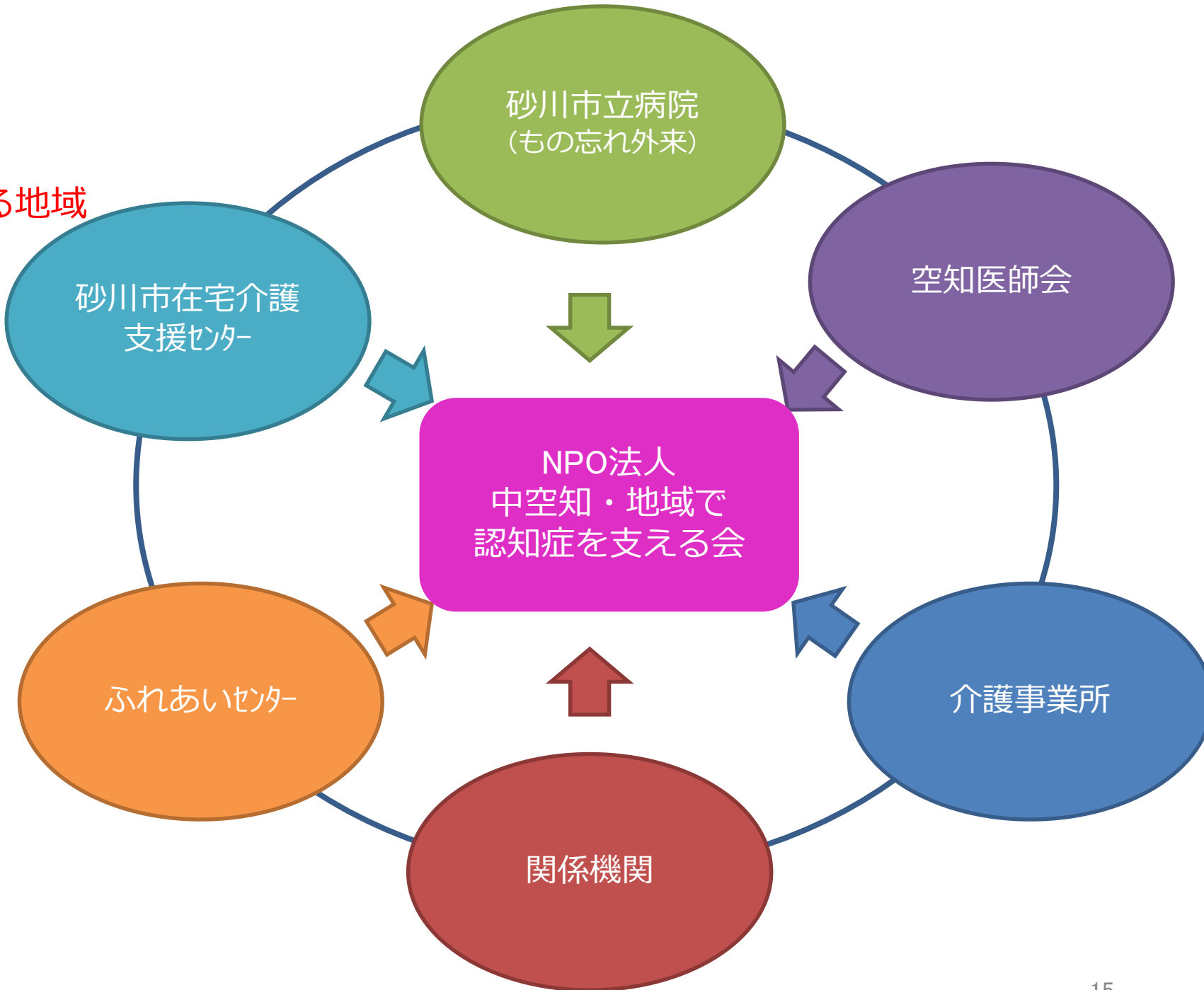
病診連携/多職種協働による地域支援の展開が必須



任意団体設立(H16.4)

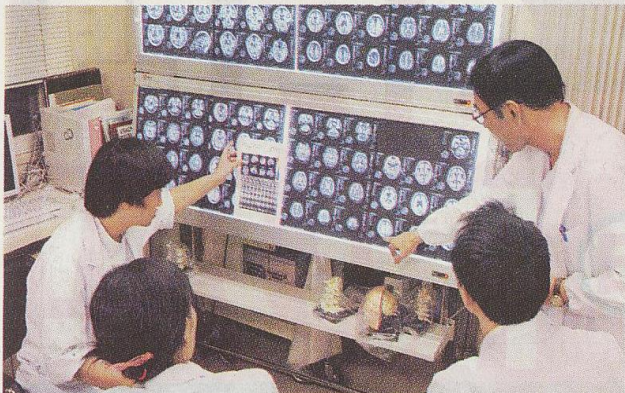


NPO法人化(H21.3)



中空知・地域で痴呆症を支える会発足(H16.4)
→ 同年12月 痴呆症から認知症へ名称変更

心と脳と神経の専門医が患者の治療方針を話し合うもの忘れ外来



【砂川】痴呆のお年寄りとその家族を支える「中空知・地域で痴呆を支える会」(小泉例代表世話人)が、このほど発足した。砂川市立病院もの忘れ外来を中心に、周辺市町の病院や診療所の医師、福祉関係者らが連携し、心身両面からの総合的な診断をもとに、医療と介護スタッフが最善の対応策を考える。

中空知・地域で痴呆を支える会「発足」



同市立病院精神科の内(いて、「完治はできない海久美子医師は痴呆につが、薬などで進行を遅らせることは可能と話し、早期治療の重要性を訴える。しかし本人やその家族は「一年だから仕方ない」「検査は大げさ」「相談相手がない」「治療など」と治療

「もの忘れ外来」は完全予約制で、これまでに二十人が受診。患者についての情報は、医療機関と在宅介護などに当たる福祉関係者間で共有され

痴呆介護 地域で後押し

を受けず、病状を悪化させられた。

中空知の高齢化率(六十五歳以上の高齢者が人口に占める割合)は、上砂川や歌志内が35%を越すなどいずれも高く、対策が急務だった。このため同市立病院は今年一月、空知医師会の協力を得て、もの忘れ外来を開

NPO法人の認定証を手にする小泉理事長(中央)と両海理事と方波眞康理事



中空知・地域で認知症を支える会

活動拡大へNPO化

【砂川】専門医や開業医などが連携して認知症のケアに取り組む「中空知・地域で認知症を支える会」(小泉会長)が、このほどNPO法人の認定を受けた。法人格を得たことで寄付などが募りやすくなるほか、夏には認知症ケアのためのボランティア団体の発足を目指しており、活動のさらなる拡大を目指す。

同会は〇〇四年、精神科、養を認める開業医、介護職員、経科、脳神経外科、神経内科、が参加して、研修会や市民講座を開き、認知症の理解を深め、理事長となる。小泉理事長は、

ボランティア団体発足へ

「寄付などの面で活動への理解を求めやすく、会として活動に継続性を持たせることができる」と法人化のメリットを語る。「認知症患者同士で介護を行う」「認知介護」の例も多く、幅広いニーズに応えたい」と話す。

多職種連携の強化



事業委託など活動拡大

認知症啓発・認知症ケア向上



多職種連携(医療・介護連携)

認知症啓発活動の流れ①

「認知症をあきらめない」をテーマに市民健康フォーラム開催(年1回)



早期発見・早期対応の必要性の周知(自分自身の問題)



認知症をあきらめない!

～**第5回** 市民健康フォーラム～
中空知・地域で認知症を支える会

認知症を、あきらめない。
あなただけで、ご家族だけで悩んでいませんか?
入場無料・申し込み不要
どなたでも参加いただけます。
(先着500名)

とき
平成20年7月19日(土)
午後1時 開場
午後2時 開演

ところ
砂川市地域交流センター
ゆう「大ホール」
(砂川駅直結)
砂川市東3条北2丁目3-3
TEL: 0125-54-3111

座長 砂川市立病院 精神神経科 部長 内海 久美子 先生

座談会 午後2時～午後2時30分
— 若年性認知症の患者さん・家族による座談会 —

特別講演 午後2時30分～午後3時30分
『脳を知り、脳を鍛える』
講師：東北大学加齢医学研究所
教授 川島 隆太 先生

共催：中空知・地域で認知症を支える会、エーザイ株式会社、ファイザー株式会社
後援：空知医師会・滝川医師会・深川医師会・赤平市医師会・芦別市医師会・北海道空知保健福祉事務所滝川地域保健部
砂川市社会福祉協議会・滝川市社会福祉協議会・芦別市社会福祉協議会・赤平市社会福祉協議会
歌志内市社会福祉協議会・赤井江町社会福祉協議会・上砂川町社会福祉協議会・新十津川町社会福祉協議会
滝口町社会福祉協議会・南幌町社会福祉協議会・北海道看護協会空知支部・北海道理学療法士会空知支部
北海道作業療法士会空知支部・砂川市介護支援専門員連絡協議会・滝川地域介護サービス事業連携協議会
砂川市認知症を抱える家族の会(ひまわり会)・赤井江町家族介護を語る会・上砂川町認知症の老人と共に歩む会(さつき会)
滝川地区認知症の人と共に歩む家族の会(あけぼの会)・北海道新聞社滝川支局・プレス空知・FM G'Sky (※FM)

問い合わせ先：空知医師会 TEL: 0125-54-2313

～**第7回** 市民健康フォーラム～
NPO法人 中空知・地域で認知症を支える会

認知症を、あきらめない。
あなただけで、ご家族だけで悩んでいませんか?
入場無料・申し込み不要
どなたでも参加いただけます。
(先着500名)

とき
平成22年7月24日(土)
午後1時 開場
午後2時 開演

ところ
砂川市地域交流センター
ゆう「大ホール」
(砂川駅直結)
砂川市東3条北2丁目3-3
TEL: 0125-54-3111

座長 砂川市立病院 精神神経科 部長 内海 久美子 先生

演奏会 午後2時～午後2時45分
「楽団FUKU」
札幌市在住の二重の夫婦(後藤静二・後藤由紀子、川窪裕・川窪みどり、夫は共に若年認知症)とアイサーピスの副校長武田純子さんの5人で結成した楽団。クラリネットとフルードによる演奏は、観客に感動を与える。一昨年は、オーストラリアで講演と演奏活動をおこない、NHK教育でも放送され話題を呼んだ。

休憩 午後2時45分～午後3時

特別講演 午後3時～午後4時
「認知症のケアと予防」
講師：筑波大学大学院 人間総合科学研究科 精神病態医学
教授 朝田 隆 先生

共催：NPO法人 中空知・地域で認知症を支える会、エーザイ株式会社、ファイザー株式会社
後援：砂川市・空知医師会・滝川市医師会・深川医師会・赤平市医師会・芦別市医師会・北海道空知保健福祉事務所滝川地域保健部
砂川市社会福祉協議会・滝川市社会福祉協議会・芦別市社会福祉協議会・赤平市社会福祉協議会
歌志内市社会福祉協議会・赤井江町社会福祉協議会・上砂川町社会福祉協議会・新十津川町社会福祉協議会
滝口町社会福祉協議会・南幌町社会福祉協議会・北海道看護協会空知支部・北海道理学療法士会空知支部
北海道作業療法士会空知支部・砂川市介護支援専門員連絡協議会・滝川地域介護サービス事業連携協議会
砂川市認知症を抱える家族の会(ひまわり会)・赤井江町家族介護を語る会・上砂川町認知症の老人と共に歩む会(さつき会)
滝川地区認知症の人と共に歩む家族の会(あけぼの会)・北海道新聞社滝川支局・プレス空知・FM G'Sky (※FM)

問い合わせ先：エーザイ株式会社 旭川CO TEL: 0166-22-1291(平日午前9時～午後5時)

市民健康フォーラム特別講演

- ・第1回 愛媛大学医学部 精神神経医学講座 池田 学助教授
- ・第2回 埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科 深津 亮教授
- ・第3回 北海道医療大学 精神看護学 阿保 順子教授
- ・第4回 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法科 池田 望教授
- ・第5回 東北大学加齢医学研究所 川島隆太教授
- ・第6回 横浜市立大学医学部 名誉教授 横浜ほうゆう病院 小阪 憲司院長
- ・第7回 筑波大学大学院 人間総合科学研究科精神病態学 朝田 隆教授
- ・第8回 鳥取大学医学部保健学科 生態生制御学講座
環境保健分野 浦上 克哉教授
- ・第9回 秋田県立脳血管研究センター 神経内科 部長 長田乾先生
- ・第10回 京都府立医科大学 名誉教授 中島健二先生
- ・第11回 群馬大学医学部保健学科 教授 山口晴保先生
- ・第12回 公益財団法人北海道勤労者医療協会勤医協中央病院
名誉院長 伊古田 俊夫先生

* 所属等については市民健康フォーラム開催時のものとなっています。

市民フォーラムの様子



「認知症に興味を持っている人が増えてきた・・・」

認知症啓発活動の流れ②

認知症サポーター養成講座！

身近啓発活動「自分自身 + 身近な人も…」(認知症啓発の入口として)

認知症についてもっと
知りたいわ～

なる程～
まだ、知りたいこと
があるな～

大切にしたいポイント

- 中核症状について → 障害によって生活がしずらくなる
- 認知症は「病気」である事
- 大切な事は早期発見・早期診断・早期治療！
(もの忘れ外来<精神神経科>への受診)

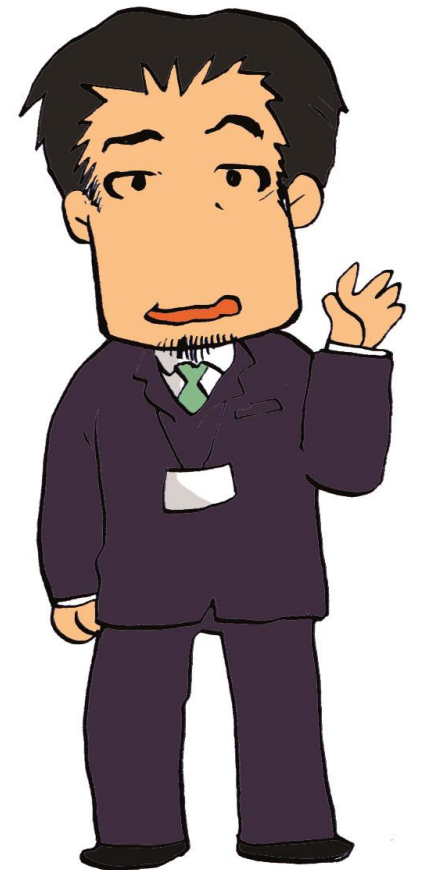


精神神経科に対するイメージの払拭
(地域住民も、そして私も！)

1年間で認知症サポーター
500名(近く)を養成！



アンケート結果から



認知症支援ボランティア養成講座(現 認知症基礎講座)

私たちに何かできることは
ないかしら!

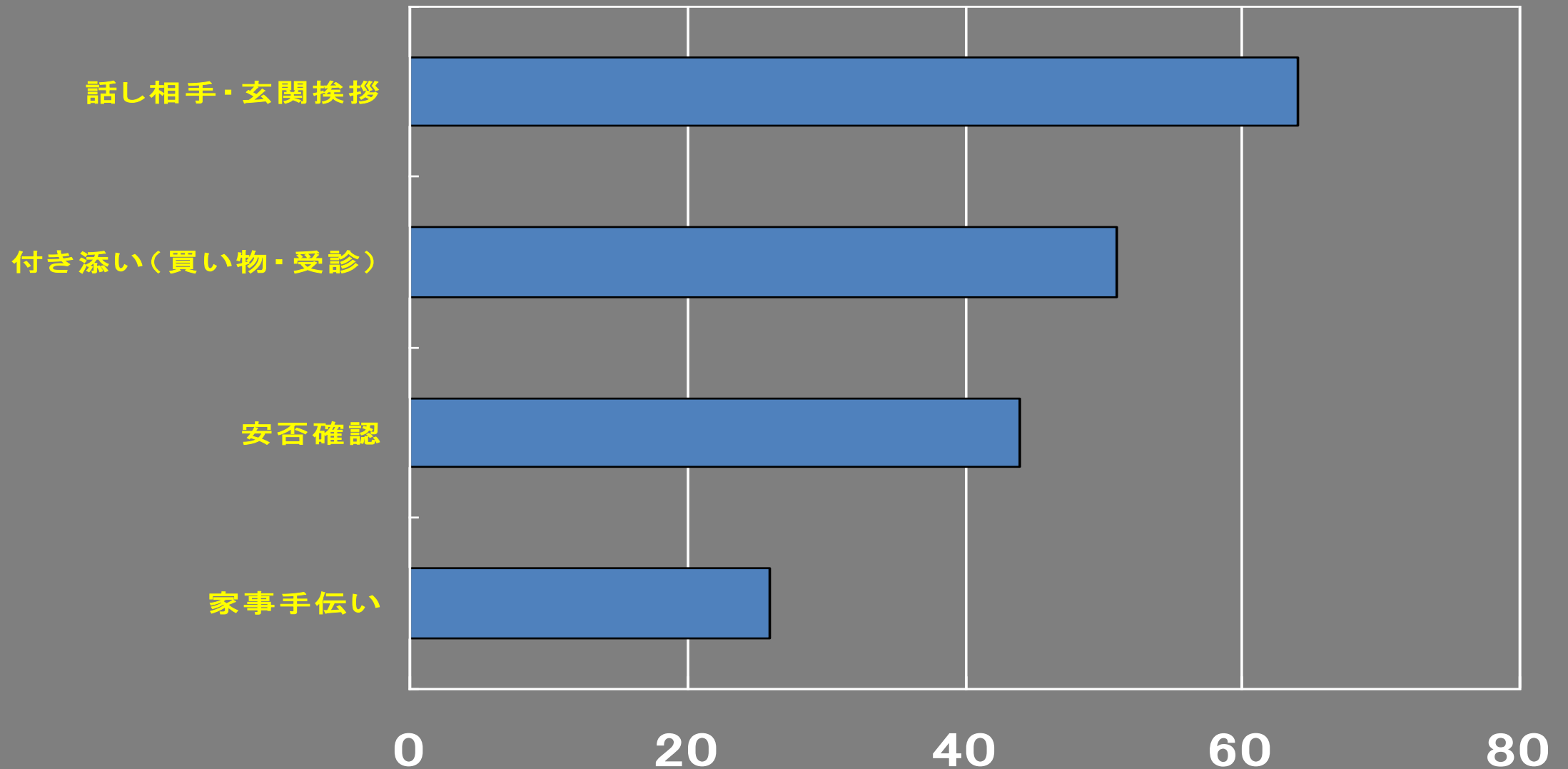
これなら出来るかも・・・!

- 1回(20名) 基礎講座(1)
- 4回(20名) 実際の実習体験(実習)
- 9回(21名) 新聞発刊の裏切り
- 9回(20名) 補償、障害の状況

週一回の5回シリーズ

認知症支援ボランティアに対する要望アンケート

(調査期間:H21年2月1日~3月31日 回答者数:46名 複数回答)



* 介護保険ではサービスできない“すきま”の支援

認知症基礎講座



認知症基礎研修の内容

認知症の理解

認知症の方との関り

コミュニケーションから考える認知症

GW 振り返りと今後について

認知症基礎講座


ケアマネ

家族会会長

ボランティア会長

民生委員






町内会長としてこんな活動しているとこんな事があるんだよ。

民生委員としての活動しているとこんな事に気が付くのよ！

家族の会としても市民の皆さんに伝えたい事が多いの。



学習する事で興味が更
にあがったわ～

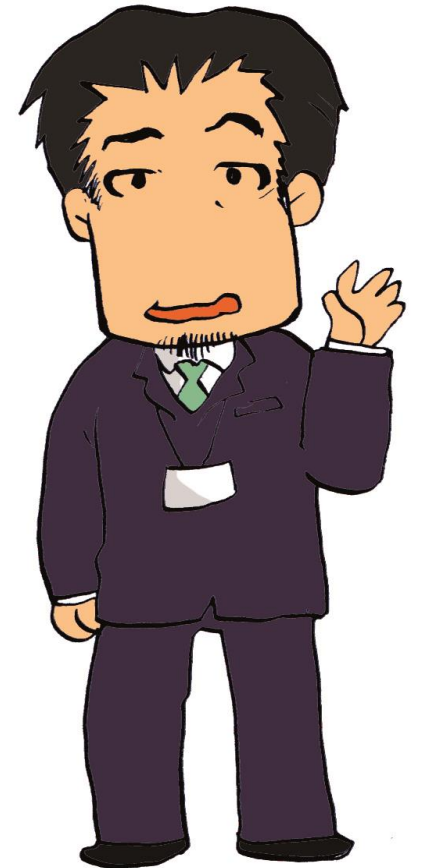
色々な活動を通じて
気が付くことがある
のよ。

自分の出来ることな
ら「お手伝い」がで
きそう。

知識を活かしたい、何か
してみたい！



こんなに出ましたけど・・・



認知症支援ボランティア団体 “ぽっけ” 設立 H22.4.26



ドラえもんの“ぽっけ”のように
いろいろな要望に即時対応する

認知症支援 ボランティア “ぽっけ” 1時間600円有償 会員28名

月例会の様子



2011年1月6日 連携で飛躍

昨年12月下旬、滝川市の福祉施設職員金打友子さん(66)は、市内の病院前で老人施設に入居している85歳の女性を出迎えた。女性の診察に付き添い、会計を済ませるまで約2時間、家族の話をしたり、女性の思い出話を聞いた。診察の際に医師の指示を書き取った紙を渡し、女性をタクシーに乗せると「またね」と見送った。実はこの日、老人施設職員の手が足りなくなり、金打さんが代役を務めたのだ。

砂川市立病院

市立病院の専門医らでつくるNPO法人「中空知・地域で認知症を支える会」の呼び掛けで昨年4月に発足した。滝川、砂川、赤平の各市や奈井江町などの主婦ら24人が認知症患者の受診に付き添うほか、家族が買い物などで外出する際には患者と一緒に留守番を務めるなどの活動をしている。



滝川市内の病院で診察の付き添いを終え、患者を見送る「ぽっけ」の金打さん(右)

役割分担促し患者支援

「支える会」の理事で同病院の精神保健福祉士大辻誠司さん(47)は「自治体単独の医療、福祉には限界がある。地域の各機関や住民が連携し、役割を分担しながら患者を

支える仕組みが必要」とぽっけの意義を語る。時間制限はなく1回600円だが、滝川を中心に砂川、赤平の各市など月に30回、40時間ほどの利用があり、中空知の

介護現場では貴重な存在になりつつある。運営の核となる同病院は昨年6月、国が整備を進める「認知症疾患医療センター」のモデル病院に指定された。自治体の

台。このほか時間外外来にも19人が訪れ、3人の当直医師らが対応に追われた。

昨年10月の新本館オープン以来、救急医療体制はさらに充実した。「公

人命を優先
一方で同病院は救急医療の拠点でもある。昨年12月24日。この日、午前2時に滝川市から、同6時半には美唄市から救急車が着いた。

立病院がある近隣自治体からも救急患者が運ばれるケースが、少しずつ増えている(「医事課」という。人件費などがかさみ多くの病院で赤字の救急部門。同病院も例外はない。市役所内には「近隣自治体は砂川の救急に負担金を払うべき」との声もない。だが小規模で、負担金は当面考えない。うち金の医者で頭張る中空知の救急医療科を「つ」と言い切

北海道新聞 23.1.6

自治体間の連携を求める声がある中で、その途上にある救急医療。人命を救うため、自治体の境界を越えた患者に対し医師たちの奮闘は続く。(荒井友香)

活動エピソード

受診の付添い・傾聴訪問・安否確認など

- ・ 夫受診、弁当持参で昼食会
- ・ 急用で不在にする間、祖母と留守番
- ・ 通夜の夜、一晩共に過ごすボランティア
- ・ ご指名の傾聴訪問
- ・ 男性ボランティアの活躍
- ・ 孫の結婚式に同席してほしい
- ・ 墓参りに一緒に行ってほしい



認知症啓発活動のイメージ

強

認知症への興味

弱



<認知症支援ボランティア「ぽっけ」>

地域の中に生きがい・役割をもって「いきいき」とした生活の実現(介護予防的な側面もあり)と「地域づくり」の実践。
同じ目的を持った仲間作りの実践

参加へのアプローチ

<認知症基礎講座/ボランティア養成講座>

4~5回の連続講座として実施し具体的な支援方法等について伝達する。これなら出来る、これが出来る等、GW実施により引き出す。また、参加者への承認等を実施しモチベーション向上を図る。

活動への動機付けアプローチ

<市民健康フォーラム>

「認知症をあきらめない」をスローガンに認知症理解の入り口で自分の問題として捉える。
(医療面が中心)

自助へのアプローチ

<認知症サポーター養成講座>

認知症は身近な問題として考える機会として身近な場所で実施する。オレンジリングが仲間意識を向上。
地域で「見守る」→「繋げる」を明確に……

互助へのアプローチ

認知症への理解

～心がけたこと～

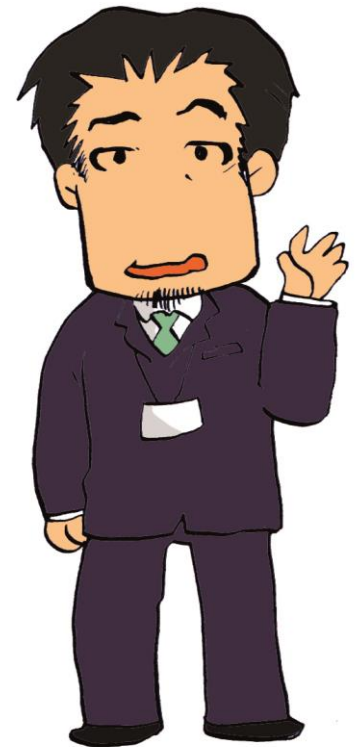
- 一機関で取り組むのではなく、砂川市立病院、医師会など多職種での取組を実施し地道に取り組んだ

「が」の視点ではなく「も」の視点で・・・

- 事業実施にあたっては、認知症を介護している(していた)方々から声に耳を傾けたこと

当事者（介護者）の言葉がエビデンス

- 受講者のニーズ(もっと学びたい)に答えがステップアップの講座のエビデンス
- 人材育成をするのではなく、仲間作りを意識したこと



関わったことによる成果

- 地域で暮らす認知症の人への対応の変化
- 精神神経科への受診に対するイメージの変化(ハードルが下がる)
- 研修を受講した方々が自主組織である「認知症支援ボランティア団体ぽっけ」を設立し、介護保険外の認知症の方を支えるサービスとして活躍

(認知症ボランティア養成講座は「ぽっけ」が引き継ぎ各地で「ぽっけ養成講座」として実施している。→ 後方支援へ)

- 認知症疾患医療センターの指定、認知症地域支援推進員の配置の他、認知症初期集中支援チーム、認知症カフェや認知症ケアパスへと繋がる「きっかけ」となった。
- 行政を巻き込んだ各種事業へ展開している。

啓発活動を継続する事により

認知症を正しく理解する人が増えてきた。



地域で認知症を支える（互助）の強化を図る事ができた。



自ら受診行動を行う人が徐々に増えてきた。（自助）



今後の取組み(予定)や さらに強化したい点

- 認知症に関する事業は「全てに繋がっている」と実感
→ 認知症施策の推進が「地域包括ケア」に繋がる。
(地域ケア会議等「地域支援事業」にも繋がる)
- 認知症サポーター養成講座の地域展開
→ 入口機能として積極的展開
(見守り視点の強化 → 地域支え合いのツールとして)

全国の推進員さんへのメッセージ

認知症地域支援推進員の活動は「地域づくり」。今取り組んでいる活動が「点」だとしても、実践を続ける事で「その点」が繋がり「線」になると実感できると思います。

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの「きっかけ」作りが我々の役割です仲間と一緒に「ぼちぼち」行きましょう！



**ご清聴感謝します。
ありがとうございました。**

一般社団法人 北海道総合在宅ケア事業団

砂川市地域包括支援センター 高橋 聡

電話 0125-54-3077 FAX 0125-54-3091

E-mail s-takahashi@hghi.or.jp

NPO法人 中空知・地域で認知症を支える会

NPO法人 中空知成年後見センター

北海道砂川市へお越しく下さい。

豊かな自然と美味しいスイーツが

貴方のお越しを待っています。

